



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る総合診療を目指す」として連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

仕事以外、プライベートでは一切人に会わないステイホーム生活を強いてきたこの2カ月あまり、心の友は、YouTubeでした。

オジサンを癒してくれるのは、やはり、昭和の音楽です。ついこの前も、ゴダイゴの曲を堪能しました。『銀河鉄道999』『モンキー・マジック』。そしてやはり、ゴダイゴ最大のヒット曲となった『ガンダーラ』、何度聴いても飽きることはない名曲です。

このゴダイゴのメンバーで、名ギタリストとして知られた、浅野孝己さんが、5月12日に急逝されました。享年68。

報道によれば、12日の朝に、浅野さんが都内の自宅で倒れているのを家族が発見。緊急搬送されましたが、すでに心肺停止

157 浅野孝己



直接の関係はわかりませんが、浅野さんは膠原(こうげん)病を患っており、3月末に体調を崩して入院。4月20日に退院され、自宅療養中でした。膠原病という名前は知っています。

状態であり、病院で死亡が確認されたとのこと。死因は、虚血性心不全。つまり、突然死です。

も、どんな病気かわからない人も多いかと思えます。

膠原病は自己免疫疾患とも呼ばれています。原因は未だ特定されていませんが、免疫システムが何かのきっかけで乱れて自身自身の細胞を「敵」と勘違いし、攻撃することで発症します。症状は実に多彩です。全身の関節が痛む関節リウマチ、発熱や皮膚症状から始まる全身性エリテマトーデス、ドライアイやドライマウスが特徴的なシェーグレン症候群、強皮症、全身性血管炎……など。

こうして症状を挙げると、「あれ? 新型コロナと似ているのでは?」と思われた方も多いかもしれません。

たしかに全身性の血管炎に関して、新型コロナの要注意症状として、先週の勝武士関の訃報の際にも書かせていただきました。

浅野さんの搬送先の病院も「隠れコロナ死」を疑ったのでしたとのこと。結果は陰性でした。これから自分のあいだ、終末期医療にかかわる医療者は、「コロナかコロナでないか」を見極めながら看取りをすることもなります。これは、病院でも在宅医療でも同じです。

緊急事態宣言は明けましたが、市民の恐怖はそう簡単には消えません。しかしだからといって、誰かの死を「コロナかも?」と噂したり、勝手な憶測をネットで流したりする行為は、自重してほしいです。

コロナで亡くなる人が強調されますが、全体の死者数からいってごくわずかです。私は今週も変わらず、がんや老衰の人の最期に立ち合っています。無論、スタッフ一同コロナ予防には万全の態勢を取っています。私たち、在宅スタッフにとって、死は日常です。

癒やされたゴダイゴの曲